

■特別展

義経展—源氏・平氏・奥州藤原氏の至宝—

会期 平成17年7月23日(土)～9月4日(日) 会場 分類展示室および特別展示室

NHK大河ドラマ「義経」の関連企画として、当館および千葉市美術館・兵庫県立歴史博物館を会場に開催する大規模巡回展です。若き日を平泉で過ごし、源平合戦で華々しく活躍した源義経。そして、平泉で31年の短い生涯を終えた義経は、今もなお伝説や物語、浄瑠璃・能・歌舞伎などの主人公として人々に愛されています。義経ゆかりの品々をはじめ、平氏の栄華を物語る「平家納経」、源平合戦を描いた屏風、奥州藤原氏の黄金文化を今に伝える資料など、平安後期を代表する国宝17件、重要文化財30件を含む157件の美術工芸品を公開します。

第1章 源氏と奥州・みちのく

関東で勢威を誇った源氏は、前九年・後三年合戦で奥州進出を図ります。しかし、多くの犠牲を払いながらもその野望はかなわず、奥州の地では藤原清衡が平泉を中心に百年の栄華の基礎を築いていきます。保元・平治の乱を経て衰退した源氏にとって奥州の制覇は、平氏打倒とともに宿願だったのです。

この章では、「前九年合戦絵詞」（国立歴史民俗博物館蔵・重文）などにより源氏と奥州の結びつきを紹介し、「頼朝自筆書状」（金剛峯寺蔵・国宝）や「保元の乱画帖」（馬

の博物館蔵）など源氏ゆかりの品々を展示します。

第2章 平氏一族の栄華

「平氏にあらざれば人にあらざ」と栄華を極めた平氏。世界遺産に登録された平氏の氏神・厳島神社には、平清盛はじめ平氏一門が奉納した数々の宝物が平氏の繁栄を今に伝えていきます。「平家納経」（国宝）や清盛の長男重盛所用と伝えられる「紺糸威鏡」（国宝）などの厳島神社の名宝とともに、平氏一門の書写という「法華経」（太山寺蔵・重文）、鳥羽法皇らが奉納した久能寺経（鉄舟寺蔵・国宝）などを紹介します。

一方、平氏への不満も次第に強まり、以仁王と源頼政が治承4年(1180)に平氏打倒の兵を挙げます。支援した南都興福寺と東大寺は平重衡によって焼討ちされ、「東大寺大仏縁起絵巻」（東大寺蔵・重文）が燃え落ちる大仏殿の様子を伝えています。そして、以仁王の発した平氏追討の令旨によって各地の源氏が挙兵していきました。

第3章 牛若丸から義経へ

牛若丸は源義朝の九男として平治元年(1159)に生まれました。母の常盤は千人の中から選ばれたという京随一の美女。牛若丸が生れてまもなく、平治の乱で父義朝は平清盛に敗れて非業の死を遂げます。雪の中を逃れる常盤の姿は、数々の物語や絵画

に描写されています。

鞍馬寺に預けられ学問と読経に励んでいた牛若丸は、自分の出自を知ると剣術の稽古に励んだといえます。出家を迫られた16歳のとき鞍馬を抜け出し、元服して義経と名を改め、富勢を知られた藤原秀衡を頼って奥州平泉に向かいます。名将義経が誕生する過程を「義経記」（茨城県立歴史館蔵）など絵画作品を通して紹介し、義経の守本尊「千手観音菩薩立蔵」（金剛峯寺蔵）や愛用の笛「薄墨」（鉄舟寺蔵）などのゆかりの品々を展示します。

第4章 栄光の源平合戦

治承4年(1180)10月、関東を制圧した源頼朝が富士川の合戦で平氏を敗走させた翌日、平泉から駆けつけた義経は兄頼朝と涙の対面を果たしました。一方、木曾義仲も北陸で挙兵し、頼朝が鎌倉で政権の基盤づくりをする間に、寿永2年(1183)7月、義仲軍は平氏を西海に追い京都を制圧します。しかし、義仲は京の人心をとらえることができず、後白河法皇は頼朝に義仲追討の命令を下します。

寿永3年1月、兄頼朝に代わって義経は京に攻め上り、いよいよ合戦絵巻に義経が華やかに登場します。凄惨な合戦のなか、人々の胸を打つ多くのエピソードが生れ、琵琶法師の語る平家物語によって流布して



安倍貞任・宗任の出陣の様子
前九年合戦絵詞（国立歴史民俗博物館蔵／重文）



平重衡の攻撃で炎上する東大寺大仏殿
「東大寺大仏縁起絵巻」（東大寺蔵／重文）



平家納経 法華経「妙音菩薩品第二十四」
(厳島神社蔵／国宝)



桐文笈 (中尊寺地蔵院蔵／重文)



伝北条政子奉納 金銅琵琶
(和歌山県丹生都比売神社蔵／重文)

いきました。

木曾義仲との戦いや、一の谷・屋島を経て文治元年(1185)3月24日に壇の浦で平氏を滅ぼすまでの義経の活躍を中心に、屏風や絵巻物に描かれた源平合戦の名場面が構成します。

第5章 東下りの道

源平合戦で名声を高めた義経は兄頼朝の不興を買い、再び奥州平泉を頼りました。その逃避行を助けたのが、吉野・白山・出羽三山などの修験者たちだったと伝えられています。この章は、義経を支えた平安時代の修験者たちの仏教美術で構成します。神秘的な微笑をたたえる能面「若女」(岐阜県長滝白山神社蔵・重文)、精緻な彫刻と鮮やかな色彩が美しい「桐文笈」(中尊寺地蔵院蔵・重文)、修験の聖地・羽黒山御手洗池から出土した「羽黒鏡」(出羽三山神社蔵・重文)などを展示します。

第6章 奥州藤原氏と平泉の黄金秘宝

みちのくの黄金や駿馬、北方世界との交易によって得た莫大な富を背景に、約百年にわたり平泉は都に匹敵する文化を花開かせます。

平泉の黄金文化を象徴する国宝「金色堂」の精巧な模型(中尊寺蔵)や、金字と銀字で経文を一行ずつ交互に記す「紺紙金銀字交書一切経(中尊寺経)」(金剛峯寺蔵・国宝)などから、都文化の模倣にとどまらない平泉文化の独自性を紹介します。

第7章 滅びし者への愛惜

南北朝以降、義経と彼を取り巻く世界は伝説となり、能や浄瑠璃などの物語や浮世絵、近代の日本画でも表現されています。それらの作品のうち浮世絵と近代日本画に描かれた義経と源平の世界を紹介します。

(主任専門学芸調査員 時田里志)

■講演会

- 7月31日「平家納経と中尊寺経の美」
有賀祥隆氏(東京芸大客員教授)
- 8月7日「ぼくらのヒーロー“義経”」
千葉信胤氏(平泉郷土館)
- 8月14日「平泉文化を掘る」
佐々木勝(当館学芸部長)
- 8月21日「義経を受け入れた平泉の文化と思想」
大矢邦宣氏(盛岡大教授)
- 9月4日「義経北行伝説」
金野静一氏(岩手県文化財愛護協会顧問)

いずれも日曜日 13:30~15:00

会場：当館講堂

義経展チケット半券必要、140名先着

■スライド展示解説会

7月30日(土) 8月28日(日)

いずれも13:30~14:30

会場：ハイビジョン室・展示会場

70名先着 義経展チケット必要



源義経自筆書状(金剛峯寺蔵／国宝)



大蘇芳年筆「義経記五条橋の図」(くもん子ども研究所蔵)